

芸術 (書道 I)

発 番 号	行 名	者 称 略 称	教科書の記号・番号	判型	ページ数	検定済年
2	東京書籍	東書	書 I 002-901	A 4	160	令和 7 年
6	教育図書	教図	書 I 006-901	A 4	164	令和 7 年
38	光村図書出版	光村	書 I 038-901	A 4	158	令和 7 年
38	光村図書出版	光村	書 I 705	A 4	158	令和 3 年
50	大修館書店	大修館	書 I 050-901	A 4	166	令和 7 年

※「教科書の記号・番号」欄にある◆は、「学習者用デジタル教科書」（学校教育法第34条第2項に規定する教材）の発行予定があることを示す。

1 調査の対象となる教科書の冊数と発行者及び教科書の番号

書道 I		冊 数	5 冊
発行者の略称・教科書の番号	東書002-901 教図006-901 光村038-901 光村705 大修館050-901		

2 学習指導要領における教科・科目の目標等

【芸術の目標】

芸術の幅広い活動を通して、各科目における見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする。
- (2) 創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。
- (3) 生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

【書道 I の目標】

書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。
- (2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。
- (3) 主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

【書道 I の内容及び内容の取扱い】

「内 容」の概要	「内容の取扱い」抜粋
A 表現 表現に関する資質・能力を次のとおり育成する。 (1) 漢字仮名交じりの書 漢字仮名交じりの書に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 知識や技能を得たり生かしたりしながら、次の(ア)から(ウ)までについて構想し工夫すること。 (ア) 漢字と仮名の調和した字形、文字の大きさ、全体の構成 (イ) 目的や用途に即した表現形式、意図に基づいた表現 (ウ) 名筆を生かした表現や現代に生きる表現 イ 次の(ア)及び(イ)について理解すること。 (ア) 用具・用材の特徴と表現効果との関わり (イ) 名筆や現代の様々な書の表現と用筆・運筆との関わり ウ 次の(ア)及び(イ)の技能を身に付けること。 (ア) 目的や用途に即した効果的な表現 (イ) 漢字と仮名の調和した線質による表現	(1) 内容の「A表現」及び「B鑑賞」の指導については、相互の関連を図るものとする。 (2) 内容の「A表現」の(1)、(2)及び(3)の指導はア、イ及びウの各事項、「B鑑賞」の(1)の指導はア及びイの各事項を適切に関連させる。 (3) 内容の「A表現」の(1)については漢字は楷書及び行書、仮名は平仮名及び片仮名、(2)については楷書及び行書 (3)については平仮名、片仮名及び変体仮名を扱うものとする。 (4) 内容の「A表現」の(2)及び(3)については、臨書及び創作を通して指導する。 (5) 内容の「共通事項」は、「A表現」及び「B表現」の指導と併せて、十分な指導が行われるよう工夫する。 (6) 内容の「A表現」の指導は、篆刻、刻字等を扱うよう配慮する。 (7) 内容の「A表現」の指導は、中学校国語科書写との関連を考慮するとともに、高等学校国語科との関連を図り、硬筆も取り上げるよう配慮する。 (8) 内容の「B鑑賞」の(1)のイの(ウ)の指導は、漢字仮名交じり文の成立について取り上げる。

「内 容」の概要	「内容の取扱い」抜粋
(2) 漢字の書 漢字の書に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 知識や技能を得たり生かしたりしながら、次の(ア)及び(イ)について構想し工夫すること。 (ア) 古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成 (イ) 意図に基づいた表現 イ 次の(ア)及び(イ)について理解すること。 (ア) 用具・用材の特徴と表現効果との関わり (イ) 書体や書風と用筆・運筆との関わり ウ 次の(ア)及び(イ)の技能を身に付けること。 (ア) 古典に基づく基本的な用筆・運筆 (イ) 古典の線質、字形や構成を生かした表現 (3) 仮名の書 仮名の書に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 知識や技能を得たり生かしたりしながら、次の(ア)及び(イ)について構想し工夫すること。 (ア) 古典の書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成 (イ) 意図に基づいた表現 イ 次の(ア)及び(イ)について理解すること。 (ア) 用具・用材の特徴と表現効果との関わり (イ) 線質や書風と用筆・運筆との関わり ウ 次の(ア)及び(イ)の技能を身に付けること。 (ア) 古典に基づく基本的な用筆・運筆 (イ) 連綿と単体、線質や字形を生かした表現 B 鑑 賞 鑑賞に関する資質・能力を次のとおり育成する。 (1) 鑑賞 鑑賞に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、次の(ア)及び(イ)について考え、書のよさや美しさを味わって捉えること。 (ア) 作品の価値とその根拠 (イ) 生活や社会における書の効用 イ 次の(ア)から(エ)までについて理解を深めること。 (ア) 線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり (イ) 日本及び中国等の文字と書の伝統と文化 (ウ) 漢字の書体の変遷、仮名の成立等 (エ) 書の伝統的な鑑賞の方法や形態	(9) 内容の「A表現」及び「B鑑賞」の指導に当たっては、思考力、判断力、表現力等の育成を図るため、芸術科書道の特質に応じた言語活動を適切に位置付けられるよう指導を工夫する。なお、内容の「B鑑賞」の指導に当たっては、作品について根拠をもって批評する活動などを取り入れるようにする。 (10) 内容の「A表現」及び「B鑑賞」の指導に当たっては、書道の諸活動を通して、生徒が文字や書と生活や社会との関わりを実感できるよう指導を工夫する。 (11) 自己や他者の著作物及びそれらの著作者の創造性を尊重する態度の形成を図るとともに、必要に応じて、書に関する知的財産権について触れるようにする。また、こうした態度の形成が、書の伝統と文化の継承、発展、創造を支えていることへの理解につながるよう配慮する。

「内 容」の概要	「内容の取扱い」抜粋
〔共通事項〕 表現及び鑑賞の学習において共通に必要なとなる資質・能力を次のとおり育成する。 (1) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 用筆・運筆から生み出される書の表現性とその表現効果との関わりについて理解すること。 イ 書を構成する要素について、それら相互の関連がもたらす働きと関わらせて理解すること。	

3 教科書の調査研究

(1) 内容

ア 調査研究の総括表

調 査 項 目	対象の根拠(目標等との関連)
a 単元など内容や時間のまとまりを通して、その中で育む資質・能力の育成	学習指導要領第2章 第7節 第3款
b 芸術科書道の特質に応じた言語活動を適切に位置付けた指導	学習指導要領第2章 第7節 第2款 第10 3(9)
その他の項目(各教科共通)	東京都教育ビジョン

イ 調査項目の具体的な内容

① 調査項目の具体的な内容の対象とした事項

調査研究事項のa、b及びその他の項目との関連で、次の事項について具体的に調査研究する。

- a 単元など内容や時間のまとまりを通して、その中で育む資質・能力の育成
 - ・ 各単元において、どのような資質・能力を育成できるか見取る。
- b 芸術科書道の特質に応じた言語活動を適切に位置付けた指導
 - ・ 芸術科書道の特質に応じた言語活動を適切に位置付けた指導についてどのように扱っているかを見取る。

《その他の項目》(各教科共通)

- ・ 我が国の伝統や文化、国土や歴史に対する理解、他国の多様な文化の尊重に関する特徴や工夫
- ・ 人権課題(同和問題、北朝鮮による拉致問題等)に関する特徴や工夫
- ・ 安全・防災や自然災害の扱い
- ・ オリンピック・パラリンピックに関する特徴や工夫
- ・ 伝統的な男女の役割が分かるような記述

② 調査対象事項を設定した理由等

- a 単元など内容や時間のまとまりを通して、その中で育む資質・能力の育成
 - ・ 学習指導要領の第3款の中で「題材など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて」と言及されているので、書道Iでは、各単元(各文章)における「表現」「鑑賞」の指導の場面がどのように設定されているかという視点で質的な調査をする。
- b 芸術科書道の特質に応じた言語活動を適切に位置付けた指導
 - ・ 学習指導要領では、「内容の「A表現」及び「B鑑賞」の指導に当たっては、思考力、判断力、表現力等の育成を図るため、芸術科書道の特質に応じた言語活動を適切に位置付けられるよう指導を工夫する」とこととされている。このことから、芸術科書道の特質に応じた言語活動を適切に位置付けた指導の場面がどのように設定されているかという視点で質的な調査をする。

《その他の項目》(各教科共通)

- ・ 我が国の領域をめぐる問題及び国旗・国歌の取り扱いについては、学習指導要領総則に基づき、これらの問題を正しく理解できるようにするため、その扱いについて調査する。
- ・ 北朝鮮による拉致問題については、東京都教育委員会教育目標の基本方針1に基づき、人権尊重の理念を正しく理解できるようにするため、その扱いについて調査する。
- ・ 東京都では、自然災害時における被害を最小化し、首都機能の迅速な復旧を図る総合的なリスクマネジメント方策の確立が喫緊の課題であり、防災教育の普及等により地域の防災力の向上が重要であることから、防災や自然災害の扱いについて調査する。
- ・ 東京都教育委員会教育目標の基本方針2・3に基づき、文化・スポーツに親しみ、国際社会に貢献できる日本人を育成するという観点から、オリンピック・パラリンピックの扱いについて調査する。
- ・ 伝統的な男女の役割については、固定的な性別役割分担意識の解消や、「無意識の思い込み(アンコンシャス・バイアス)」に気付いて言動等を見直していくなど、男女の平等を重んずる態度を養うことができるよう、その扱いについて調査する。

(2) 構成上の工夫(各教科共通)

- ・ デジタルコンテンツの扱い
- ・ ユニバーサルデザインの視点

教科名	芸術
科目名	書道 I

発行者（略称）		東書	
教科書番号		書 I 002-901	
教科書名		書道 I	
(I) 内容			
a 単元など内容や時間のまとまりを通して、その中で育む資質・能力の育成			
	【A 表現】	(1) 漢字仮名交じりの書	・「古典を生かした表現」という学習活動が設定され、古典の表現の特徴を生かした漢字と仮名の調和がもたらす効果について考えるという視点で、表現と用筆・運筆との関わりが理解できるよう工夫されている。 ・「言葉と書を調和させよう」という創作活動が設定され、自分の意図に基づいた表現を目指し、工夫して書くことができるかという視点で、伝えるべき相手を常に意識することの大切さが理解できるように工夫されている。 ・同じ言葉であっても、文字の大きさや配列など紙面の構成により様々な表現ができることを学ぶという目的を設定し、表現の工夫の例を多く示すことで、作品を構成し表現を工夫して表すことについて考えることができるよう工夫されている。
		(2) 漢字の書	・行書、草書、隸書、篆書、楷書についてそれぞれの書の特徴や書の概要、書風を説明することで、知識や技能を得たりしながら、用筆・運筆との関わりやそこに見られる線質、字形、全体の構成などについて構想できるよう工夫されている。 ・「表現を比べよう」という学習活動が設定され、二つの書を直観的、分析的に見ることで字形や構成を生かした表現について考えることができるように工夫されている。
		(3) 仮名の書	・平安時代の著名な作品には「表現の特徴」が示され、端正な字形と滑らかな線質や立体感をもたせる墨継ぎと線の太細について考えることをとおして、「仮名の書」の美の重要な要素について知ることができるように工夫されている。 ・「古筆を生かそう」という学習活動が設定され、古典に基づく効果的な表現の技能を身に付け、行の構成や文字の展開を工夫して表現ができるよう創作手順が具体的に示されている。
	【B 鑑賞】	(1) 生活や社会における書の効用	・様々な写真を掲載し、刻字という作品制作活動が、現代において表札に活用されるなどの価値があることが理解できるよう工夫されている。 ・「生活に広げる」という活動が設定され、漢字仮名交じりの作品が現代においてTシャツ、うちわなど実用的なものや看板、商品のラベルといった身の回りの実用的な場面で活用されるなどの価値があることが理解できるよう工夫されている。
		(2) 日本及び中国等の文字と書の伝統と文化	・「漢字の成立と変遷」や「仮名の成立」について示され、中国における書体の変化や作品がどのように日本に受容されてきたのかを知るとともに、日本独自の書の伝統と文化を形成した過程が理解できるよう工夫されている。 ・「受け継がれる古筆」といったコラムが設定され、日本における書の伝統と文化の広がりを知るとともに、歴史的な展開の中で理解できるように工夫されている。
b 芸術科書道の特質に応じた言語活動を適切に位置付けた指導			
			・創作作品の完成後、生徒が互いの作品に対する評価や鑑賞を行う言語活動を推進する「鑑賞し合う」という項目が設けられたことで、書の感性と語彙力を高めるとともに、鑑賞する楽しさを共有することができる。

《その他の項目》（各教科共通）		
我が国の伝統や文化、国土や歴史に対する理解、他国の多様な文化の尊重に関する特徴や工夫		・中国から仏教が日本に伝来することにより漢字がどのように広まったのかを知ることや王羲之の神格化された話など、生徒の知的好奇心を刺激するコラムが複数設けられている。
人権課題（同和問題、北朝鮮による拉致問題等）に関する特徴や工夫		記載なし
安全・防災や自然災害の扱い		・防災訓練に関するポスターが掲載されている。
オリンピック・パラリンピックに関する特徴や工夫		記載なし
伝統的な男女の役割が分かるような記述		仮名文字の変遷の中で、「男手」から「女手」が生まれたという記述がみられる。
(2) 構成上の工夫		
デジタルコンテンツの扱い		二次元コードを読み込むと、運筆方法や歴史的背景を知ることのできる動画が流れるような工夫がなされている。
ユニバーサルデザインの視点		全ての生徒の色覚特性に適應するようにデザインされている。

教科名	芸術
科目名	書道Ⅰ

発行者（略称）		教図
教科書番号		書Ⅰ006-901
教科書名		書Ⅰ
(1) 内容		
a 単元など内容や時間のまとまりを通して、その中で育む資質・能力の育成		
	【A 表現】	(1) 漢字仮名交じりの書
		・「漢字仮名交じりの書の作品制作」という単元が設定され、作品制作の手順や紙面構成の工夫について説明するとともに、書を書く目的や対象を考えることで、自分自身の表現を目指すよう工夫されている。 ・「心を込めて書く」という創作活動が設定され、手書きの文字について考えることを通して、目的や用途に即した表現形式について判断し、表現効果を考えることができるよう工夫されている。
		(2) 漢字の書
		・楷書、行書、草書、隷書、篆書の代表的な法帖を示し、解説や大きな図版を示すとともに、作品、人物や書風について理解ができるよう工夫されている。 ・「漢字の書の作品制作をしよう」という学習活動が設定され、智識や技能を生かしながら、感興や意図に応じた個性的な表現について構想できるよう工夫されている。
		(3) 仮名の書
	【B 鑑賞】	・仮名の代表的な書について解説や大きな図版を示すとともに、作品、人物や書風について説明し、用筆・運筆のリズムと構成などの理解ができるよう工夫されている。 ・「仮名の書の作品制作をしよう」という学習活動が設定され、単体や連綿、変体仮名の使用、墨の濃淡や潤濁など、さまざまな表現の要素が絡み合う仮名の書の美について考えることができるよう工夫されている。
		(1) 生活や社会における書の効用
		現代社会の中での手書きの文字の意義について考える内容を掲載することで、メールにはない手書き文字のぬくもりや価値を感じる工夫がされている。
		(2) 日本及び中国等の文字と書の伝統と文化
		・「漢字の夜明け」では、中国の歴史における書体の変化やそれに伴って出来た作品について説明するとともに、現代社会における「ビクトグラム」にもつながること等、書の伝統と文化について理解できる工夫がされている。 ・隷書、草書、行書、楷書、仮名などについて、簡潔に3つのポイントから解説することで日本や中国等における文字と書の伝統や文化の広がりを理解できるよう工夫されている。
b 芸術科書道の特質に応じた言語活動を適切に位置付けた指導		
		・主に作品の鑑賞の場面で、他者と共に鑑賞しながら互いの考えを話し、共有するというような言語活動が推進できるよう、「自分自身の経験を書の鑑賞に生かそう」という学習活動が設けられている。

《その他の項目》（各教科共通）		
我が国の伝統や文化、国土や歴史に対する理解、他国の多様な文化の尊重に関する特徴や工夫		・中国における漢字の誕生から日本の仮名文字へと発展するまでの流れを時系列で並べて掲載することで、現代社会における漢字仮名交じり文に対する漢字の影響がわかりやすい構成になっている。 ・王羲之と顔真卿に触れるなど、中国の書の伝統を知るとともに日本書道との関係が分かるようになっている。
人権課題（同和問題、北朝鮮による拉致問題等）に関する特徴や工夫		記載なし
安全・防災や自然災害の扱い		記載なし
オリンピック・パラリンピックに関する特徴や工夫		記載なし
伝統的な男女の役割が分かるような記述		資料とともに「女手・仮名」という表記がある。
(2) 構成上の工夫		
デジタルコンテンツの扱い		二次元コードで二文字拡大図版の筆順や補助線など、書風を読み解くためのヒントが見られるよう工夫されている。
ユニバーサルデザインの視点		全ページを通してカラーユニバーサルデザインに配慮したデザインを採用している。

教科名	芸術
科目名	書道 I

発行者（略称）		光村	
教科書番号		書 I 038-901	
教科書名		書 I	
(I) 内容			
a 単元など内容や時間のまとまりを通して、その中で育む資質・能力の育成			
	【A 表現】	(1) 漢字仮名交じりの書	・「好きな言葉を書こう」という学習活動が設定され、臨書で学んだ表現技法や鑑賞で育んだ感性を土台として、自分の意図に基づいた表現を目指し、工夫して書くことを理解するとともに、「考える・書く・話す」という「創作の3ステップ」を示すことで、より表現を深められるよう工夫されている。 ・「表現の幅を広げよう」という学習活動が設定され、用具・用材や紙面構成についての印象や表現効果を考える活動を通して、文字の大きさや配列、使う用具・用材によって作品の印象が変わることについて学習できるよう工夫されている。
		(2) 漢字の書	・楷書、行書、草書、隷書、篆書についてそれぞれの漢字の書を構成する様々な要素、古典の概要や用筆・連筆との関わりが理解できるよう、図版を大きく載せていたり、基本点画を大きく示したりするなど、工夫されている。 ・「古典を生かした創作」という学習活動が設定され、臨書で学んだ表現技法や鑑賞で育んだ感性を土台として、自分の意図に基づいた表現を目指し、工夫して書くことを理解するとともに、「考える・書く・話す」という「創作の3ステップ」を示すことで、より表現を深められるよう工夫されている。 ・図解補線と筆遣いの解説が丁寧に示されていることや古典教材が原寸大で採録されているなど、視覚的に理解しやすい工夫がされている。
		(3) 仮名の書	・自分の名前を変体仮名で教科書に直接書き込む箇所やワークシートがあり、学びをすぐに実践できる工夫がされている。 ・「高野切第三種」の中で連綿について取り上げ、意連や形連など、連綿の見られる部分の観察を通して、筆脈を意識して書くことや文字群の捉え方、余白への意識について理解できるよう工夫されている。 ・「寸松庵色紙」など「散らし書き」が取り上げられており、先人が培ってきた仮名の構成美を理解し、我が国の伝統と文化を尊重できるよう工夫されている。
	【B 鑑賞】	(1) 生活や社会における書の効用	・「好きな書を見つけに行こう」という学習活動が設定され、美術館や展覧会に足を運んで書を鑑賞することを通して、生活や社会の中で果たしている書の役割について考えるよう工夫されている。 ・「書道パフォーマンス」を挙げ、生涯にわたって書を楽しむ方法を呈示している。
		(2) 日本及び中国等の文字と書の伝統と文化	・「漢字の変遷やさまざまな書体」や「仮名の成立と種類」など、中国から漢字が伝わり、日本独自の仮名が生まれるまでの過程が作品とともに解説されることで、各時代の文化と関連をもって理解できるよう工夫されている。 ・「文房四宝マップ」を掲載し、書道の道具が生産されている地域を知ることを通して、地域に根差した日本の書道文化について知ることができるよう工夫されている。
		b 芸術科書道の特質に応じた言語活動を適切に位置付けた指導	
			・「やってみたいこと」を書く活動や完成した作品を鑑賞する活動など、書に親しむ心を養うとともに、自分の経験や感じたことを書の鑑賞に生かすという工夫が見られる。

《その他の項目》（各教科共通）		
我が国の伝統や文化、国土や歴史に対する理解、他国の多様な文化の尊重に関する特徴や工夫		・書道史上の人物のエピソードを漫画で紹介することで生徒の書道に対する親しみやすさを向上させる工夫がみられる。 ・「世界に広がる書道」などのコラムを設けることで、書道が我が国の伝統文化であることの理解を深めるとともに、世界に広まっていることが理解できる。
人権課題（同和問題、北朝鮮による拉致問題等）に関する特徴や工夫		記載なし
安全・防災や自然災害の扱い		記載なし
オリンピック・パラリンピックに関する特徴や工夫		記載なし
伝統的な男女の役割が分かるような記述		「漢字をもとに日本で生まれた文字」の中で、「真仮名・男手」から「女手」までの変遷が記載されている。
(2) 構成上の工夫		
デジタルコンテンツの扱い		二次元コードを読み込むと、運筆動画や篆刻・刻字の動画など、さまざまな資料が見られるよう工夫がなされている。
ユニバーサルデザインの視点		全ページを通してカラーユニバーサルデザインに配慮したデザインを採用している。

教科名	芸術
科目名	書道 I

発行者（略称）		光村	
教科書番号		書 I 705	
教科書名		書 I	
(1) 内容			
a 単元など内容や時間のまとまりを通して、その中で育む資質・能力の育成			
	【A 表現】	(1) 漢字仮名交じりの書	・「好きな言葉を書こう」という学習活動が設定され、臨書で学んだ表現技法や鑑賞で育んだ感性を土台として、自分の意図に基づいた表現を目指し、工夫して書くことを理解するとともに、「考える・書く・話す」という「創作の3ステップ」を示すことで、より表現を深められるよう工夫されている。 ・「表現の幅を広げよう」という学習活動が設定され、用具・用材や紙面構成についての印象や表現効果を考える活動を通して、文字の大きさや配列、使う用具・用材によって作品の印象が変わることについて学習できるよう工夫されている。
		(2) 漢字の書	・楷書、行書、草書、隷書、篆書についてそれぞれの漢字の書を構成する様々な要素、古典の概要や用筆・運筆との関わりが理解できるよう、図版を大きく載せていたり、基本点画を大きく示したりするなど、工夫されている。 ・「古典を生かした創作」という学習活動が設定され、臨書で学んだ表現技法や鑑賞で育んだ感性を土台として、自分の意図に基づいた表現を目指し、工夫して書くことを理解するとともに、「考える・書く・話す」という「創作の3ステップ」を示すことで、より表現を深められるよう工夫されている。 ・図解補線と筆遣いの解説が丁寧に示されていることや古典教材が原寸大で採録されているなど、視覚的に理解しやすい工夫がされている。
		(3) 仮名の書	・「高野切第三種」の中で連綿について取り上げ、意連や形連など、連綿の見られる部分の観察を通して、筆脈を意識して書くことや文字群の捉え方、余白への意識について理解できるよう工夫されている。 ・「寸松庵色紙」など「散らし書き」が取り上げられており、先人が培ってきた仮名の構成美を理解し、我が国の伝統と文化を尊重できるよう工夫されている。
	【B 鑑賞】	(1) 生活や社会における書の効用	・「美術館・博物館へ行こう」というコラムが設けられ、美術館や展覧会に足を運んで書を鑑賞することを通して、生活や社会の中で果たしている書の役割について考えるよう工夫されている。
		(2) 日本及び中国等の文字と書の伝統と文化	・「漢字の変遷とさまざまな書体」や「仮名の成立と種類」など、中国から漢字が伝わり、日本独自の仮名が生まれるまでの過程が作品とともに解説されることで、各時代の文化と関連をもって理解できるよう工夫されている。
	b 芸術科書道の特質に応じた言語活動を適切に位置付けた指導		
			・完成した作品を鑑賞する活動など、書に親しむ心を養うとともに、自分の経験や感じたことを書の鑑賞に生かすという工夫が見られる。

《その他の項目》（各教科共通）		
我が国の伝統や文化、国土や歴史に対する理解、他国の多様な文化の尊重に関する特徴や工夫		・「美しい料紙の世界」などのコラムを設けることで、書道が我が国の伝統文化であることの理解を深めるとともに、世界に広まっていることが理解できる。
人権課題（同和問題、北朝鮮による拉致問題等）に関する特徴や工夫		記載なし
安全・防災や自然災害の扱い		記載なし
オリンピック・パラリンピックに関する特徴や工夫		記載なし
伝統的な男女の役割が分かるような記述		「漢字をもとに日本で生まれた文字」の中で、「真仮名・男手」から「女手」までの変遷が記載されている。
(2) 構成上の工夫		
デジタルコンテンツの扱い		二次元コードを読み込むと、運筆動画や篆刻・刻字の動画など、さまざまな資料が見られるよう工夫がなされている。
ユニバーサルデザインの視点		全ページを通してカラーユニバーサルデザインに配慮したデザインを採用している。

教科名	芸術
科目名	書道Ⅰ

発行者（略称）		大修館	
教科書番号		書Ⅰ050-901	
教科書名		新編 書道Ⅰ	
(1) 内容			
a 単元など内容や時間のまとまりを通して、その中で育む資質・能力の育成			
	【A 表現】	(1) 漢字仮名交じりの書	・「感動や思いを表現しよう」という学習活動が設定され、自分の意図に基づいた表現を目指し、自分の書いた作品を通じて自分の心境や決意などの思いや感動を表現し、相手に伝えることを意識した言葉選びの大切さを気付けるよう工夫されている。 ・「用具・用材の工夫」では、生徒自身が創作するときのヒントになる墨・紙・筆の表現の違いを示すことで、自己の表現に生かせるよう工夫がされている。
		(2) 漢字の書	・楷書、行書、篆書、隷書、草書についてそれぞれの漢字の書を構成する様々な要素、古典の概要や用筆・運筆との関わりが理解できるよう、図版を大きく載せていたり、特徴を端的に示したりするなど、工夫されている。 ・穂先だけ朱墨を使用した用筆を図示することで運筆を可視化し、生徒の理解を促す工夫がある。 ・漢字の書の制作をするという学習活動が設定され、古典の臨書や鑑賞を通して身に着けた知識や技能を生かしながら、個性的な表現について構想できるよう工夫されている。
		(3) 仮名の書	・「高野切第三種」の用例を使って連綿について取り上げ、意連や形連など、連綿の見られる部分の観察を通して、筆脈を意識して書くことや文字群の捉え方、余白への意識について理解できるよう工夫されている。 ・「墨量が多く線が太い部分」という囲みがあり、墨継ぎを視覚的に理解できる工夫がされている。
	【B 鑑賞】	(1) 生活や社会における書の効用	・「身のまわりの書」について学習する活動が設定され、学習した楷書や行書などが現在どのように利用されているかを知ることを通して、生活や社会の中で果たしている幅広い書の役割について考えることができるよう工夫されている。
		(2) 日本及び中国等の文字と書の伝統と文化	・旧字体・異体字などについて具体的に触れるコラムや漢字の変遷等を取り上げることで、漢字の歴史や書体の変遷について理解を深める工夫がされている。 ・「唐の四大家」や「空海の書への情熱」などについての説明を通して、日本や中国における書の伝統と文化について理解を深める工夫がされている。
		b 芸術科書道の特質に応じた言語活動を適切に位置付けた指導	

《その他の項目》（各教科共通）		
我が国の伝統や文化、国土や歴史に対する理解、他国の多様な文化の尊重に関する特徴や工夫		・漢字の書体の変遷や仮名の成立等について理解する学習を通して、これまで伝えられてきた書の伝統と文化について理解が深められ、親しみがもてるよう工夫されている。 ・「書式の教室」は手紙の書き方や包み紙といった日本の文化やマナーが学べる構成になっている。
人権課題（同和問題、北朝鮮による拉致問題等）に関する特徴や工夫		記載なし
安全・防災や自然災害の扱い		記載なし
オリンピック・パラリンピックに関する特徴や工夫		記載なし
伝統的な男女の役割が分かるような記述		「真仮名・男手」から「女手」までの変遷が記載されている。
(2) 構成上の工夫		
デジタルコンテンツの扱い		二次元コードを読み込むと、運筆動画や篆刻・刻字の動画など、さまざまな資料が見られるような工夫がなされている。
ユニバーサルデザインの視点		記載なし